

中小企業診断士試験



出る順診断士令和6年1次本試験解説



財務・会計

れつ LEC 東京リーガルマインド



0 001412 250069

NL25006

## 【令和6年度の出題分析】“やっぱり過去問”

### 1-1 講評

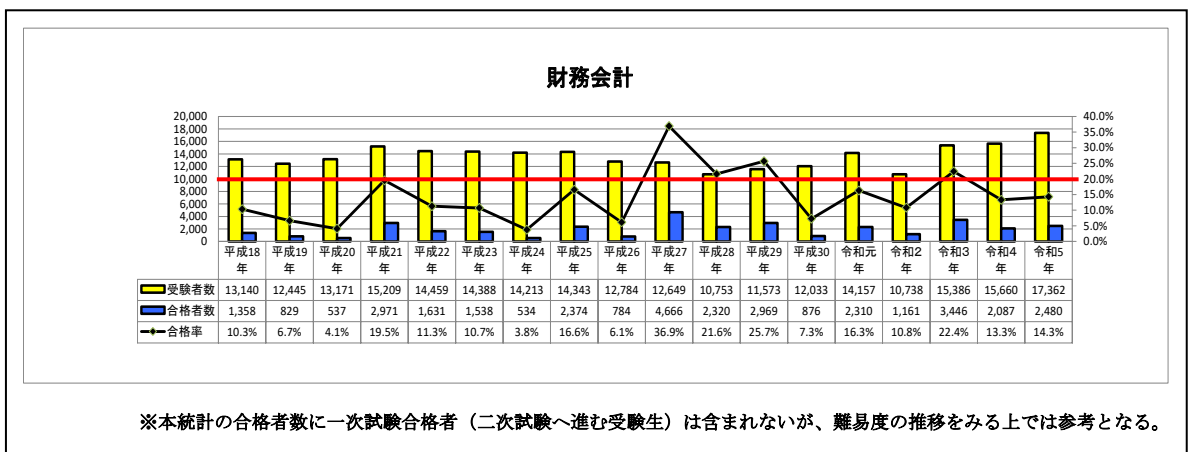
令和6年度の財務・会計は、難易度については、昨年と同等程度であり、長期的にみると平均的であった（合格率15.1%<sup>1</sup>）。LEC解答リサーチによる平均点は56.8点であり、難易度の高くない問題を落ち着いてある程度得点していけば、合格圏レベルの得点を獲得することは十分に可能であったといえる。

出題分野については、会計分野（制度会計、管理会計）から14問（小問レベル）、財務分野から11（小問レベル）であり、各分野からバランスよく出題されていたといえる。

計算問題と知識問題の割合については、知識問題が15問、計算問題が10問である。知識問題の割合の方が大きくなっており、ここ数年この傾向が継続している（以前は、知識問題と計算問題が約半分ずつであった）。

本年度の問題の特徴は、合格するために確実に得点すべき比較的易しい問題が相当数ある<sup>2</sup>一方で、難問に分類される問題<sup>3</sup>も多く、得点できる問題に集中することができたかが重要であったといえる。

表1 受験者数、合格者数の推移（財務会計）



<sup>1</sup> 一般社団法人中小企業診断協会 中小企業診断士試験の情報より算出

<sup>2</sup> 第5問、第7問、第8問、第10問、第10問、第12問（設問1、設問2）、第13問、第16問、第17問、第18問、第23問、第24問

<sup>3</sup> 第3問、第6問、第14問、第19問、第20問、第21問、第22問

## 1-2 出題領域

全体的に様々な分野からバランス良く出題されていた。

「診断協会発表の出題分野」から見た「今年度(令和6年度)の出題分野」の分析

1次試験（財務・会計）出題分野 ※診断協会発表の「試験科目設置の目的と内容」より。			令和6年1次 （財務・会計）問題		
大分類	小分類				
会計	(1)簿記の基礎	簿記原理 会計帳簿 決算処理一巡	<input type="checkbox"/>	■ 第01問	収益認識基準(引当金)
	(2)企業会計の基礎	損益計算書 貸借対照表 キャッシュ・フロー計算書 企業結合 会計ディスクロージャー	<input checked="" type="checkbox"/>	■ 第02問	経過勘定項目
			<input checked="" type="checkbox"/>	■ 第03問	金融商品に関する会計基準
			<input checked="" type="checkbox"/>	■ 第04問	会社法および会計計算規則
			<input checked="" type="checkbox"/>	■ 第05問	法廷福利費(費用)
			<input checked="" type="checkbox"/>	■ 第06問	貸借対照表の表示
(3)税務会計の基礎	損金と益金 課税所得と税額の計算	<input type="checkbox"/>	■ 第07問	営業キャッシュ・フローの計算	
(4)原価計算	原価概念 原価計算の種類と方法 原価情報の利用	<input type="checkbox"/>	■ 第08問	中小企業の会計に関する指針	
		<input type="checkbox"/>	■ 第09問	法人税	
財務	(5)経営分析	経営比率分析 損益分岐点分析 その他	<input type="checkbox"/>	■ 第10問	個別原価計算
			<input type="checkbox"/>	■ 第11問	経営分析(取引による財務諸表および財務指標への影響)
	(6)利益と資金の管理	利益計画 予算・実績差異分析 資金繰りと資金計画 キャッシュ・フロー管理 運転資金の管理 キャッシュ・フロー関連比率	<input checked="" type="checkbox"/>	■ 第12問(1)	CVP分析(BEP)
			<input type="checkbox"/>	■ 第12問(2)	CVP分析(目標売上高)
			<input type="checkbox"/>	■ 第13問	資金調達形態
			<input type="checkbox"/>	■ 第14問	WACCとCAPMの関連付け
<input type="checkbox"/>			■ 第15問	配当政策	
(7)資金調達と配当政策	資金調達の形態 資本コスト ペイアウト政策 最適資本構成	<input type="checkbox"/>	■ 第16問	株式分割	
		<input type="checkbox"/>	■ 第17問	設備投資の経済性評価(IRR法、NPV法)	
		<input type="checkbox"/>	■ 第18問	設備投資の経済性評価(埋没コスト・機会コスト)	
		<input type="checkbox"/>	■ 第19問	ポートフォリオ(リスクプレミアム)	
		<input type="checkbox"/>	■ 第20問	ポートフォリオ(投資家のリスク)	
(8)実物投資	貨幣の時間価値と割引CF 投資評価基準 不確実性下の投資決定	<input type="checkbox"/>	■ 第21問	選択好性 株主還元(サステナブル成長率、株主価値)	
(9)証券投資	ポートフォリオ理論 資本市場理論	<input type="checkbox"/>	■ 第22問	企業価値(インカムアプローチ)	
(10)企業価値	株主価値の算定 企業合併・買収の企業評価	<input type="checkbox"/>	■ 第23問	企業価値(マーケットアプローチ、インカムアプローチ)	
		<input checked="" type="checkbox"/>	■ 第24問	通貨オプション	
(11)デリバティブとリスク管理	リスクの種類 オプション取引 先物取引 スワップ	<input type="checkbox"/>			
-	(12)その他財務・会計に関する事項	-	-	-	

※下線は、計算問題であることを示す。  
(25問中10問が計算問題)

### 1-3 正答率一覧

正答率から見た難易度の分布は、以下のとおりであった。

- 必達 (全体正答率が 60%以上) : 12 問 (48 点分)
- 合否を分けた問題 (科目合格者の正答率のみが 60%以上) : 6 問 (24 点分)
- 難問 (科目合格者の正答率も 60%未満) : 7 問 (28 点分)

通し 番号	問題 番号	設問 番号	解答	正答率				分類		
				≥6割	全体	<6割	差分	必達	合否を 分けた	難問
1	第1問	-	ア	64.6%	48.7%	34.7%	29.8%		◎	
2	第2問	-	ア	71.7%	57.2%	44.4%	27.2%		◎	
3	第3問	-	イ	59.1%	51.3%	44.4%	14.6%			◎
4	第4問	-	エ	60.6%	49.4%	39.6%	21.0%		◎	
5	第5問	-	ア	78.7%	66.8%	56.3%	22.5%	◎		
6	第6問	-	ア	49.6%	37.3%	26.4%	23.2%			◎
7	第7問	-	エ	82.7%	72.3%	63.2%	19.5%	◎		
8	第8問	-	イ	78.7%	69.0%	60.4%	18.3%	◎		
9	第9問	-	ウ	65.4%	55.4%	46.5%	18.8%		◎	
10	第10問	-	ウ	76.4%	63.8%	52.8%	23.6%	◎		
11	第11問	-	ア	70.1%	51.7%	35.4%	34.7%		◎	
12	第12問	設問1	ウ	96.1%	90.4%	85.4%	10.6%	◎		
13		設問2	エ	88.2%	75.6%	64.6%	23.6%	◎		
14	第13問	-	イ	82.7%	68.6%	56.3%	26.4%	◎		
15	第14問	-	ア	37.8%	26.9%	17.4%	20.4%			◎
16	第15問	-	ウ	73.2%	55.4%	39.6%	33.6%		◎	
17	第16問	-	イ	93.7%	79.0%	66.0%	27.7%	◎		
18	第17問	-	ア	75.6%	63.5%	52.8%	22.8%	◎		
19	第18問	-	ア	75.6%	60.5%	47.2%	28.4%	◎		
20	第19問	-	イ	29.9%	22.1%	15.3%	14.6%			◎
21	第20問	-	イ	36.2%	31.0%	26.4%	9.8%			◎
22	第21問	-	エ	51.2%	38.4%	27.1%	24.1%			◎
23	第22問	-	エ	29.1%	24.0%	19.4%	9.7%			◎
24	第23問	-	ウ	92.9%	87.1%	81.9%	11.0%	◎		
25	第24問	-	ウ	89.8%	74.5%	61.1%	28.7%	◎		

合格 (60点獲得) のイメージ例 ⇒ 『1 : 1 : 1モデル』			
理 解 度	分 か る	二 択 に 絞 れ る	分 か ら な い
問 題 数 の 比 率	1 / 3	1 / 3	1 / 3
得 点 確 率	100%	50%	25%
得 点 期 待 値	100点 × (1/3) × 100% = 33.3点	100点 × (1/3) × 50% = 16.7点	100点 × (1/3) × 25% = 8.3点
	合計 : 約 60 点 ⇒ 合格レベル!		
使 う 実 力	知 識 で 判 断	知 識 で 類 推	常 識 で 判 断
	知 識	力 解	答 力
			え い や ! 神 頼 み 力

## 1-4 類似出題

## 「本試験過去問」から見た「今年度(R6の出題分野)」の分析

R6 1次問題 番号	出 題 分 野	類似・関連の本試験過去問	
		(5年以内)	(5年超)
1	収益認識基準（引当金）	R03-061, R04-03	H30-07
2	経過勘定科目		H29-02, H22-03, H19-03
3	金融商品に関する会計基準	R02-03	H21-03, H15-11
4	会社法および会計計算規則	R05-07, R02-04 R05(再)-07	H29-03, H28-05, H27-04, H25-02, H22-05
5	法廷福利費（費用）	R04-08	
6	貸借対照表の表示	R05-08, R01-07	H17-08
7	営業キャッシュ・フローの計算	R05(再)-13	H29-13, H28-09, H24-04, H21-04, H20-06
8	中小企業の会計に関する指針		H28-03, H21-05
9	法人税		
10	個別原価計算	R03-07	H27-07, H24-07, H21-06
11	経営分析（取引による財務諸表および財務指標への影響）	R05-11, R02-12	H29-12, H26-10
12 (1)	C V P 分析（B E P）	R04-12	H29-10, H27-10, H25-08, H24-11, H23-11, H21-08
12 (2)	C V P 分析（目標売上高）		H22-09, H20-12, H17-05
13	資金調達の形態	R02-14, R01-21	H29-14, H28-10, H24-15
14	W A C C と C A P M の 関 連 付 け	R03-15, R01-21	H25-14, H20-16
15	配当政策	R05-14, R04-23	H23-17, H22-19, H20-17
16	株式分割		H27-12, H23-17, H21-14
17	設備投資の経済性評価 （IRR法、NPV法）	R05-17, R03-19	H20-22, H28-17, H27-16, H26-16, H24-18
18	設備投資の経済性評価 （埋没コスト・機会コスト）	R05-16	H25-16
19	ポートフォリオ （リスクプレミアム）	R02-22	H28-18
20	ポートフォリオ （投資家のリスク選好特性）	R01-13	H23-18
21	株主還元 （サステイナブル成長率、株主価値）	R05-21, R04-17	
22	企業価値（インカムアプローチ）	R04-19, R03-22	H26-20, H22-14
23	企業価値 （マーケットアプローチ、インカムアプローチ）	R03-22	H26-20, H22-14
24	通貨オプション	R05-23	H30-19, H25-22, H22-18, H20-21

## 1-5 重要問題

## 【必達問】令和6年度 第7問 営業キャッシュ・フローの計算

## 第7問

以下の資料に基づき、営業活動によるキャッシュ・フローの計算として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

## 【資料】

- (1) 当期の損益計算書（一部抜粋）は次のとおりである。なお、当期の減価償却費は30,000千円であり、当期の営業外収益・営業外費用、特別利益・特別損失はゼロとする。

## 損益計算書（一部抜粋）

(単位：千円)

売上高	1,000,000
営業利益	200,000
法人税、住民税及び事業税	60,000
当期純利益	140,000

- (2) 前期末および当期末の貸借対照表（一部抜粋）は次のとおりである。

## 貸借対照表（一部抜粋）

(単位：千円)

	前期末	当期末
売掛金	50,000	46,000
棚卸資産	30,000	33,000
買掛金	35,000	36,200
未払法人税等	30,000	30,000

## 〔解答群〕

- ア 112,200千円  
 イ 131,800千円  
 ウ 137,800千円  
 エ 172,200千円

**【解答】**

エ（配点4点）

**【類似・関連の過去問】**

令和5年（再）第13問、平成29年第13問、平成28年第9問

**【解説のポイント】**

Focus テキスト 1-2 損益計算書

Focus テキスト 1-3 貸借対照表

Focus テキスト 6-4 営業キャッシュ・フローの算定（間接法）

Focus テキスト 6-5 営業キャッシュ・フローの算定（直接法）

**【必達問】令和6年度 第12問 (1) CVP分析(BEP) (2) CVP分析(目標売上高)****第12問**

次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

当社は、当期の実績に基づいて次期の利益計画を策定している。当期の実績データは以下の資料のとおりである。

**【資料】**

売上高	@1,000円×30,000個=30,000,000円
変動製造原価	@550円×30,000個=16,500,000円
変動販売費	@50円×30,000個=1,500,000円
固定製造原価	6,000,000円
固定販売費及び一般管理費	3,000,000円

**(設問1)**

損益分岐点売上高として、最も適切なものはどれか。なお、計算の結果が割り切れない場合には、小数第1位を四捨五入すること。

- ア 13,333,333円
- イ 15,000,000円
- ウ 22,500,000円
- エ 27,000,000円

**(設問2)**

目標とする1個あたり営業利益150円を達成する販売量として、最も適切なものはどれか。なお、計算の結果が割り切れない場合には、小数第1位を四捨五入すること。

- ア 20,000個
- イ 22,500個
- ウ 30,000個
- エ 36,000個



**【解答】**

設問1 ウ（配点4点）

設問2 エ（配点4点）

**【類似・関連の過去問】**

設問1 令和4年 第12問、平成29年第10問

設問2 平成22年 第9問、平成20年第12問

**【解説のポイント】**

Focus テキスト 3-1 損益分岐点比率の計算など

Focus テキスト 3-2 目標売上高の算定

**【必達問】令和6年度 第16問 株式分割****第16問**

次の文章の空欄A～Dに入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

株式分割によって1株当たり株主価値は 。なぜなら、株式分割によって発行済み株式数は増加するが、株主の持分割合は 、また、株式分割は企業の資産内容やキャッシュ・フローに影響を  ため、株主の富が  からである。

〔解答群〕

- |   |         |        |        |         |
|---|---------|--------|--------|---------|
| ア | A：減少する  | B：減少し  | C：与える  | D：減少する  |
| イ | A：減少する  | B：変化せず | C：与えない | D：変化しない |
| ウ | A：増加する  | B：変化せず | C：与える  | D：増加する  |
| エ | A：変化しない | B：減少し  | C：与えない | D：減少する  |

**【解答】**

イ（配点4点）

**【類似・関連の過去問】**

平成27年第12問、平成23年第17問、平成21年第14問

**【解説のポイント】**

Focus テキスト 2-4 株価や配当などに関する比率

**【参考】平成21年度 第14問 株式分割****第14問**

以下の文章は、株式分割について述べたものである。文中の空欄A～Dに入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

完全市場を仮定するとき、株式分割によって1株当たり株価は 。なぜなら、株式分割によって株式数は増加するが、株主の持分割合は 、また、株式分割は企業の資産内容やキャッシュ・フローに影響を  ため、株主の富が  からである。

〔解答群〕

- |   |         |        |        |         |
|---|---------|--------|--------|---------|
| ア | A：下落する  | B：減少し  | C：与える  | D：減少する  |
| イ | A：下落する  | B：変化せず | C：与えない | D：変化しない |
| ウ | A：上昇する  | B：変化せず | C：与える  | D：増加する  |
| エ | A：変化しない | B：減少し  | C：与えない | D：減少する  |

**【必達問】令和6年度 第23問 企業価値（マーケットアプローチ、インカムアプローチ）**

**第23問**

次の文章の空欄A～Cに入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

乗数法（マルチプル法）は、主力事業が類似している上場企業の乗数として、PER（株価収益率）や企業価値EBITDA倍率などを用いて企業や事業の価値を算定する手法であり、**A**に分類される。乗数法は、**B**に分類されるDCF法（割引キャッシュフロー法）による評価をチェックしたり、簡便的に評価額を求める目的で用いられる。

企業価値EBITDA倍率は、企業や事業の価値評価でよく用いられる乗数である。企業価値EBITDA倍率の分子の企業価値は、有利子負債総額と株式時価総額の合計から現金・預金を差し引いて計算されることが多い。また、分母のEBITDAは利払前・税引前・償却前の利益であり、簡便的には**C**に減価償却費を加えて計算されるので、資本構成の影響を受けない。乗数法に分類される類似会社比較法では、対象企業と類似した複数の上場企業の企業価値EBITDA倍率を算出し、その平均倍率に対象企業のEBITDAを掛けて、対象企業の評価額を算定する。

[解答群]

- |   |              |              |        |
|---|--------------|--------------|--------|
| ア | A：コストアプローチ   | B：インカムアプローチ  | C：経常利益 |
| イ | A：コストアプローチ   | B：マーケットアプローチ | C：営業利益 |
| ウ | A：マーケットアプローチ | B：インカムアプローチ  | C：営業利益 |
| エ | A：マーケットアプローチ | B：コストアプローチ   | C：経常利益 |

**【解答】**

ウ（配点4点）

**【類似・関連の過去問】**

令和3年度 第22問、平成26年 第20問、平成22年第14問

**【解説のポイント】**

Focus テキスト 8-3 企業価値の評価方法

**【必達問】令和6年度 第24問 通貨オプション****第24問**

次の通貨オプションに関する文章の空欄A～Cに入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

現時点の為替相場（直物）は1ドル130円である。ドル建てで商品の仕入代金1,200ドルを支払う予定の企業が、決済日に1ドル132円で1,200ドルを買うことができる通貨オプションを購入し、その対価としてオプション料100円を支払う。当該企業はイン・ザ・マネーであれば権利を行使するので、たとえば決済日の為替相場（直物）が

のときには権利を行使し、 のときには権利を行使しない。決済日の為替相場（直物）が  のときに権利行使した場合、通貨オプションを購入しなかった場合に比べて総額の円支出は  少なくなる。

[解答群]

- |   |           |           |             |
|---|-----------|-----------|-------------|
| ア | A : 129 円 | B : 135 円 | C : 3,500 円 |
| イ | A : 129 円 | B : 135 円 | C : 3,700 円 |
| ウ | A : 135 円 | B : 129 円 | C : 3,500 円 |
| エ | A : 135 円 | B : 129 円 | C : 3,700 円 |

**【解答】**

ウ（配点4点）

**【類似・関連の過去問】**

令和5年度 第23問、平成30年 第19問、平成25年第22問

**【解説のポイント】**

- |            |      |                     |
|------------|------|---------------------|
| Focus テキスト | 8-10 | オプション取引             |
| Focus テキスト | 8-11 | コール・オプション プット・オプション |
| Focus テキスト | 8-12 | 先物取引の種類             |

**【合否を分けた問題】 令和6年度 第2問 経過勘定項目****第2問**

金銭債権・金銭債務や経過勘定項目に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 一定の契約に従い、継続して役務の提供を受ける場合に、すでに提供された役務に対していまだその対価の支払いがなされていないものは、未払費用という。
- イ 金銭債権が貸倒懸念債権に該当する場合、財務内容評価法により、貸倒見積高を算定しなければならない。
- ウ 販売した自社商品の代金をいまだ受け取っていない場合に計上される勘定科目は、未収入金である。
- エ 有形固定資産となる物品を購入し、その対価の支払いがなされていない場合に計上される勘定科目は、買掛金である。

**【解答】**

ア（配点4点）

**【類似・関連の過去問】**

平成29年 第2問、平成22年 第3問

**【解説のポイント】**

Focus テキスト 4-10 経過勘定項目

**【合否を分けた問題】令和6年度 第11問 経営分析（取引による財務諸表および財務指標への影響）****第11問**

当期末に、新たに長期借入（借入後60カ月にわたって元利均等弁済）を行い、その資金全額で無形固定資産を購入したとする。他の条件を一定とするとき、この取引による財務諸表および財務指標への影響に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア 1年内返済予定長期借入金が増えるので、流動比率は低下する。
- イ 借入と投資が相殺されるので、投資活動によるキャッシュ・フローおよび財務活動によるキャッシュ・フローには影響しない。
- ウ 固定資産が増加するため、固定比率は改善する。
- エ 自己資本には影響しないため、自己資本比率は変化しない。

**【解答】**

ア（配点4点）

**【類似・関連の過去問】**

令和5年度 第11問、令和2年度 第12問、平成29年 第12問

**【解説のポイント】**

Focus テキスト 1-3 貸借対照表

Focus テキスト 2-1 流動性・資本構成

Focus テキスト 6-7 投資キャッシュ・フローと財務キャッシュ・フロー

## 1-5 特記

**【難問】令和6年度 第21問 株主還元（サステナブル成長率、株主価値）****第21問**

C社の当期首の自己資本は3,000万円である。また、負債による資金調達を行っておらず、今後、外部からの資金調達を行わない予定である。当期のROEは5%、当期の配当性向は40%、株主の要求収益率は5%であり、これらは每期一定とする。

C社の当期のサステナブル成長率と当期末の配当支払後の株主価値の組み合わせとして、最も適切なものはどれか。なお、本問において、当期のROEは当期純利益を当期首の自己資本で除した値であり、配当は毎期末に支払われるものとする。

- |   |              |              |
|---|--------------|--------------|
| ア | サステナブル成長率：2% | 株主価値：3,060万円 |
| イ | サステナブル成長率：2% | 株主価値：3,090万円 |
| ウ | サステナブル成長率：3% | 株主価値：3,060万円 |
| エ | サステナブル成長率：3% | 株主価値：3,090万円 |

**【合否を分けた問題】令和5年度 第21問**

サステナブル成長率に関する記述として、最も適切なものはどれか。ただし、ROEおよび配当性向は每期一定とする。

- ア 企業が毎期の純利益の全額を配当する場合、サステナブル成長率はリスクフリー・レートに一致する。
- イ サステナブル成長率は、ROEに配当性向を乗じることで求められる。
- ウ サステナブル成長率は、事業環境に左右されるが、内部留保率には左右されない。
- エ サステナブル成長率は、配当割引モデルにおける配当成長率として用いることができる。



**【合否を分けた問題】令和4年度 第17問**

以下の資料に基づき計算したサステナブル成長率（内部留保のみを事業に投資した場合の純資産の成長率）として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

**【資料】**

売上高	5,000万円
当期純利益	200万円
総資産	4,000万円
純資産	1,000万円
配当	80万円

## 〔解答群〕

- ア 2%
- イ 3%
- ウ 8%
- エ 12%

1-6 正解選択肢の統計

		選 択 肢					合 計
		ア	イ	ウ	エ	オ	
年 度	H18(2006)	4問	7問	8問	7問	0問	26問
	H19(2007)	5問	6問	6問	8問	0問	25問
	H20(2008)	7問	7問	9問	4問	0問	27問
	H21(2009)	3問	11問	5問	6問	0問	25問
	H22(2010)	2問	9問	8問	5問	1問	25問
	H23(2011)	6問	9問	6問	3問	1問	25問
	H24(2012)	7問	3問	8問	7問	0問	25問
	H25(2013)	10問	6問	4問	6問	0問	26問
	H26(2014)	5問	5問	10問	5問	0問	25問
	H27(2015)	4問	4問	10問	6問	1問	25問
	H28(2016)	8問	4問	6問	7問	0問	25問
	H29(2017)	7問	4問	9問	4問	1問	25問
	H30(2018)	5問	5問	9問	6問	0問	25問
	R01(2019)	6問	7問	6問	6問	0問	25問
	R02(2020)	5問	6問	6問	8問	0問	25問
	R03(2021)	2問	7問	9問	7問	0問	25問
	R04(2022)	2問	8問	8問	7問	0問	25問
	R05(2023)	3問	13問	5問	4問	0問	25問
R06(2024)	8問	6問	6問	5問	0問	25問	
合計(問)		99問	127問	138問	111問	4問	479問
合計(%)		20.7%	26.5%	28.8%	23.2%	0.8%	100.0%

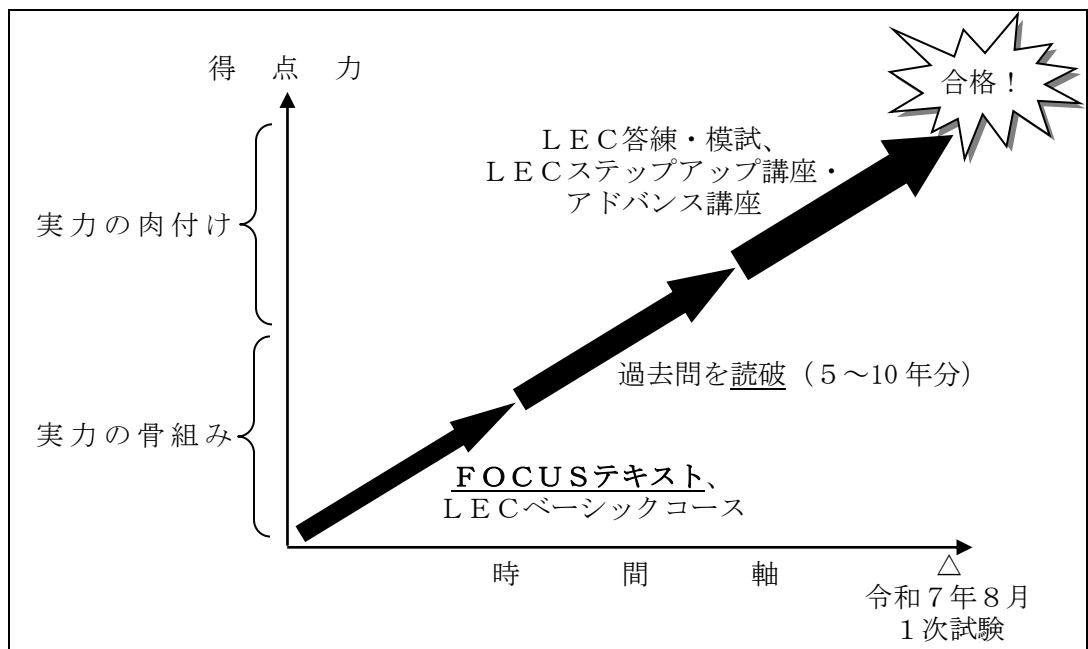
## 学習計画

### **自分の状況に応じた着実な学習が結局は近道！**

診断士試験の1次試験は、相当に学習を重ねた受験生でも高得点（80点以上）を獲得することが難しい試験である。このことは、圧倒的な「知識力」だけでも、巧みな「解答力」（思考力やテクニック）だけでも対応しきれないということを意味する。

このような試験で合格の栄冠を勝ち取るには、「知識力」と「解答力」をバランスよく身につけることが肝要であり、インプット学習（知識の蓄積）とアウトプット学習（解答力の習得）を、自分の状況に応じてバランスよく着実にを行うことが、結局は合格への近道といえる。

具体的には、来年（令和7年度）の1次試験学習対策として、以下のような段階的な流れを想定し、自分にとって最も効果的な学習方法を探りたい。



以上

中小企業診断士試験  
出る順診断士令和6年1次本試験解説  
財務・会計

(NL25006)

